

## 古代北東北の歴史を題材とするパワーポイント型プログラム学習教材の作成

池田 友晃\*, 工藤 百合子\*, 川尻 昂\*, 門脇 伸大\*\*, 板垣 健\*\*\*, 大河原 清\*\*\*\*

(2016年3月3日受理)

Tomoaki IKEDA, Yuriko KUDO, Kou KAWASHIRI, Nobuhiro KADOWAKI,

Takeshi ITAGAKI, OOKAWARA Kiyoshi

Making Programmed Learning Materials Using PowerPoint on the History of the Ancient  
Times of Northern Part of Japan.

阿弭流為 [アテルイ] から義経自害に至る古代北東北の歴史を題材として、学習者にパワーポイントを用いたプログラム学習教材を作成させた。1では、岩手大学の教育学部、教育学研究科院生が教科書の内容を分担し、それぞれが教材を作成し工夫し考察したことをまとめている。教科書の内容を覚えさせるために、資料や年表、実際に現地に赴いて写真等を用いるなど工夫を凝らしている。内容の理解と暗記をどう効果的に行うことができるかを考えた。2では、プログラム学習に関する実践研究とその結果と考察を述べている。3では、教職経験者10年研修の受講者を対象とした実践研究とその結果と考察を述べている。

### 1 学部生・院生を対象とする授業におけるパワーポイント型プログラム学習教材の作成

授業では、歴史をプログラム学習教材でどのように学習させるのかを学んだ。プログラム学習自体、暗記に特化した優れた学習方法である。歴史の内容理解の点において、どのように利用すれば児童・生徒に効果的なものとなりうるのかを考えるきっかけとなった。歴史の教科書を分担し、教

材を作成するにあたり考えてみたいことは以下の2点である。

1点は、教材をより効果的なものにするためにはどうすればよいのかという点である。授業では、教材を「説明型」と「暗記型」の二つに分けて作成した。児童・生徒に内容を深く理解させること、あるいは単語や意味を暗記させるのかにより作成タイプが変わってくる。教材を作成した学生のほとんどは、暗記させたい文言について、教科書だけではなく別の資料を読み、さらには現地に赴き撮ってきた写真を提示してより視覚的な効果を高めている。背景となる知識をどれだけ盛り込むかは作成者の判断による。効果的な教材とは何かを考えていきたいところである。

2点は、パワーポイントの提示、教科書などの紙媒体で学習することの違いを教師がどのように理解するかである。パワーポイントは、視覚的に訴えやすいことが大きな特徴である。しかし、画面がすばやく切り替わり、振り返りが難しいという側面もある。要点を絞り、覚えさせたい事柄を確実に覚えさせるためにはプログラム学習は効果を発揮するだろう。

(文責：池田友晃)

\* 岩手大学大学院教育学研究科、\*\* 岩手大学教育学部学校教育教員養成課程、\*\*\* 岩手大学教育学部附属小学校、\*\*\*\* 岩手大学教育学部

## 1.1 教材研究の対象としての「前九年の役」と歴史を学ぶ理由について

### 1) 資料としての劇画・漫画の生かし方

教材研究の対象としての「前九年の役」は、前提条件が複雑であり、また登場人物も多様であり、児童・生徒に理解させるにはかなり困難なものがある。秋田県横手市の出版社が1993年に『劇画後三年役物語』を出版した。元秋田大学学長の新野直吉氏が協力した作品で今の児童・生徒が理解を深める方法として一つのヒントになると思われる。アニメにすることも良いのかもしれない。ただ、劇画・漫画は登場人物のイメージが固定化するという問題がある。特に児童・生徒の史実や歴史上に登場する人物像についてのイメージが固定化することは、その後の人物について新たな想像をすることを妨げる要因になる。

わかりやすいということで、歴史の学習資料に漫画等を提示する授業を参観することがあるが、興味を持たせたり、わかりやすくしたりするための補助的手段であり、多用するのは望ましくない。

### 2) グローバルな視点で捉える必要性

「前九年の役」がなぜ起こったのかの原因について教えることは、当然必要である。

しかし、その前にそれが発生した時代はどういう時代であったのかを説明する必要があるように考える。「前九年の役」は1051年の「鬼切部の戦い」に端を発し、その後中央の事情で恩赦があって中断したあと、源頼義が陸奥守として赴任したことから戦いが再開された。

その頃、平安時代後期の日本は平安文化の爛熟期でありまた末法思想が広がった時代で、1053年には宇治平等院鳳凰堂が建立されている。奥羽を除けば公家文化の絶頂期であった。

世界はどうかと言えば、東アジアでは中国の北宋の最盛期となる。西欧は神聖ローマ帝国が962年に成立し、中世の真ただ中に入った。

歴史を考えるときは、個別の事例だけでなく、その事件なりが生じた時代がどうであるかを教えることによって、児童・生徒の理解力を広げる必要があると考える。

また、日本史の中だけで考えるのではなく、その時代の世界の歴史はどうだったかというグローバルな視点に気づかせる指導が重要である。

### 3) 人物にスポットを当てて歴史を捉えること

「前九年の役」の発生の経緯、登場人物の詳細は児童・生徒にとってはなかなか理解が困難であろうと思う。最初に劇画・漫画化を提唱したが、それとは別に特定の人物、特定の場所に注目するという方法があるのではないかと。安倍貞任か藤原経清ということになると思うが、山口に配流となった安倍宗任の視点から見ることもできると考える。

場所はやはり衣河ということになる。川を衣川といい、地名を称する場合は衣河であったようだ。それはともかく衣河は安倍一族の遺跡の宝庫である。

藤原清衡が平泉を拠点にして以後、衣河は忘れられたような存在になったが、安倍一族までは朝廷と蝦夷領の境界線であった。それだけに、清衡が衣河を越えて南の平泉に進出した意義は大きいのではないかと。

### 4) 地元の歴史を学ぶ

歴女と言われて、一時マスコミを賑わしたが、歴史を学び、自分でその地を訪れる研究熱心な女子が増加したばかりでなく男女問わず歴史好きは多いと思われる。文明が発達しても、人間の根源的な部分はそう変わらないともいえる。海外に留学や滞在した若者が、自分の国について尋ねられて、歴史や文化についてうまく伝えられないことに気づいた者も多い。改めて自国の歴史や文化、狭い意味での自分の育った地域のそれらのことに興味を持つ機会になったと語っている。

東北地方を舞台に起きた「前九年の役」や「後三年の役」について、学び、知識を広めることで、登場する人物像のなかに魅力を感じる児童・生徒が増加するかもしれない。児童・生徒たちが、さらに自分で調査し、研究しようという意欲を育成できれば歴史を学ぶ意義は大きいといえる。

## 5) 発想を変えて見ること

難しいことかもしれないが、歴史を学習する中で、なぜ歴史を学ぶのかという観点では、1993年横手ふるさと市民大学文化講演会で新野直吉氏（元秋田大学長）の講演を引用してもよいのかもしれない。「私はかつて、栄枯盛衰は世の習いであるが、この山北の太平地を支配していた大清河氏が、攻め滅ぼされただけの存在としてのみ名を止めていないのは哀愁極まりないことであると書いた。しかし、発想を変えてみると、清河氏配下の在地豪族がみな消え去ったわけではない。相当数の豪族はそれぞれの地域経営に戻って成果をあげ、平泉藤原氏との連携のもとに古代の終末期を迎えたにちがいないとも考えることができるわけです。」歴史を学ぶ意義は人々が何千年にもわたり、やってきたことを知ることによって「今の時代」があるということを理解させるところにある。

現在のISIS、難民問題、経済恐慌等々がなぜ起きたのか、これからどうなるのかは歴史を学ばないでは理解が困難である。歴史を、様々な視点から考えることの柔軟性と多様性を児童・生徒がその発達段階に応じて感じ取ることができるような学習が歴史への関心を高め、探求意欲を育むものといえる。

（文責：工藤百合子）

## 1.2 後三年合戦のパワーポイント型学習プログラム教材の作成について

今回、パワーポイントにおけるプログラム学習教材の作成に取り組んだ。内容は、小学校6年生

社会科の歴史の単元における「後三年合戦」についてである。この単元の内容は奥州平泉文化の形成に関わる重要なところである。

後三年合戦とは、前九年合戦の後、勢力を拡大した清原氏の内乱を藤原清衡と源義家が治めたものである。教科書では、後三年合戦の部分は「前九年合戦の後、東北地方に力をのばした清原氏を倒したのが源義家や藤原清衡たちでした。この時の戦いを後三年合戦といいます。」と記述されている。

実際に作成したパワーポイントの内容は、説明部分と暗記部分に分け、教科書の後三年合戦に関する記述部分を基に作成した。はじめに、後三年合戦のおおまかな内容を説明し、その後詳しい説明を行うという流れになるよう作成した。後三年合戦が発生するきっかけ、どのような戦いがあったのか、登場人物が誰なのか、という点に注意して作成した。合戦では、なぜ清原氏を藤原清衡と源義家が倒すことになったのか説明した。ここで作成する際に気をつけたことは、後三年合戦が清原氏の内乱であるので、清原氏の家系図を示し、そして、合戦が始まるきっかけとなった出来事も説明の中に加えたことである。

後三年合戦の内容を作成する際に気をつけたことは、後三年合戦の終結、実際に戦いが行われた場所、戦いの最中に起きた出来事を説明に加えたことである。戦いが行われた場所の写真などを載せる事により児童・生徒の興味関心を引くことができると考えた。また、戦いの最中に起きた出来事については、相手が小学校6年生ということもあり、悲惨なものや残酷な絵やエピソードを載せても良いかどうか配慮が必要なところであるが、歴史的資料として載せることにした。そして、後三年合戦後については、藤原清衡が平泉を形成するきっかけになったことだけでなく、源氏が後に鎌倉幕府を開くことにもつながることも説明に加えた。このように、歴史は時間の流れがわかるように作成することで横断的な理解ではなく、縦断的に理解することができると思う。

暗記部分では、教科書の記述内容を参考に児

童・生徒に覚えてもらいたい単語を暗記させるようなパワーポイントを作成した。児童・生徒に暗記させたい部分は、「清原氏」、「源義家」、「藤原清衡」、「後三年合戦」に限定した。そして、各単語を1つずつ覚え、ノートに書かせ、空欄にし、答えを書かせるという流れで各単語を暗記させた。はじめに、覚えるところでは教科書の記述内容の中で覚える単語を赤文字にし、サイズも大きくして強調した。そして、ノートに書かせる際には2回書かせた。しかし、「藤原清衡」に関しては漢字の難しさを考慮して、3回書かせた。また、空欄補助でも「藤原清衡」は平仮名も加え、難易度を下げた。答えを確認するところでは、間違えた人にもう一度書かせることで確実に覚えることができるようにした。(文責：川尻昂)

### 1.3 後三年の役後の「藤原清衡が平泉を拓くまで」のパワーポイント型プログラム学習教材作成上の留意点

#### 1) 教材研究の視点

はじめに教科書の内容について述べる。歴史教科書の読み込みは出来事に対してどのような背景があるか、背後にどのような事件があるかなどが省略されていることが多い。そのため、教師は教科書の内容のみにとらわれることなく、様々な資料を読み込んでいく必要がある。

教材研究を進めていくと、教師が子どもに歴史を教えるために必要なものが見えてくる。例えば「なぜ平泉は繁栄を極めたのか」という課題を考えていくとする。教科書には「清衡は、後三年合戦の後、東北地方を一つにまとめて平泉文化をきずいていきました。1126年、清衡が念願していた中尊寺が完成しました。」という記述がある。考えてみると、なぜ清衡は平泉に奥州の中心を移したのか、平泉という場所にどのようなメリットがあるのか、実際に平泉はどのような恩恵を受けていたのかなど、考えれば考えるほど疑問がわいてくると同時に、課題に対する根拠が皆無であるこ

とに気づく。

前段の課題に対して、私は以下の点で整理した。

- ①離的な要因（日本を俯瞰してみた時に、平泉は日本でどのような場所にあるのか）
- ②陸奥の特産品（奥州ではどのようなものが獲れたり、生産されていたのか、またそれらが当時の生活になぜ必要だったのか）
- ③場所の要因（清衡は陸奥国の主としてなぜ平泉を選んだのか）
- ④歴史的背景（源義家の陸奥守退任による奥州の源氏支配の弱体化によって、奥州の支配勢力図がどのように変化したのか）

の4点である。これにより、4つの立場から多角的な視点をもって学ぶことができるだろう。社会科は具体的な資料、または子どもたちが興味をもったり疑問を広げたりすることができるような資料をどのように効果的に示すことができるかが問われる教科でもある。資料選択も気をつけていきたい。

しかし、様々な視点で見つめてスライドを作成していくにあたり、避けられない課題がいくつかある。まず、時間がかかることである。教科書に無い文章や資料を自分で作成するため、教科書や様々な資料の読み込みが必要不可欠になる。また、コンピュータでスライドを作ることも時間がかかる。これを解消していくためにも、授業の中でこれだけは伝えたいという内容を教師が吟味する必要がある。

また、作成教材の提示が子どもの受動的な学習につながりやすい傾向にあるということである。特に今回挑戦したスライド中心の授業の場合、画面が切り替わり、スライド前後のつながりが見えづらい場合がある。そのため、時には子どもたちに考えさせる時間を提示したり、子どもたち自身に活動させたりするような工夫が必要である。例えば、陸奥の特産品を学ぶ際、朝廷が必要とする特産品（間違った答えもランダムに含む）を用意し、理由も答えさせながら選ばせる。こうすることで、自分の言葉で説明しながら答えを選ぶため、能動的な学習へとつながられる。



## 2) 歴史を学ぶ意義、なぜ古代東北の歴史を学ぶのか

歴史を学ぶ意義は何か、この難題に対して答え方は幾通りもあると思われるが、今回教材を作ったと感じたことは以下である。

第一に、歴史的事象を多角的にとらえる楽しさを学ぶことができる点である。覚えるだけにとどまらず、様々な疑問をもって深く考えていくと歴史の面白さが増すことを強く感じた。平泉繁栄には、地理的環境や奥州支配勢力図の変化など複数の出来事が絡み合っていた。そのため、教材作成に戸惑ったことも多くあった。しかし、議論を通して、一つ一つ歴史を紐解いていくことができた。一つの方向から見つめるだけではなく、いろいろな立場で歴史を見つめること、これを実際の授業でも実現することができればよいと思う。

第二に、当時の人々の生き方に迫ることで、自己の生き方と照らし合わせることができるという点である。藤原清衡は、前九年の役、後三年の役を通して父母を亡くしたり、義兄と戦ったりするなど悲劇的な生涯を送ってきた。そのため、平泉に仏教浄土を作り、戦いに命を絶たれた者の平和と奥州の平安を祈ろうとしたのである。つまり、勢力を豊田館から平泉に移した背景には、勢力を拡大しようとするだけでなく、広く仏教の力で治めていこうとする藤原清衡の思いが形として表れたということでもある。

歴史的人物の思いに迫ることで、未来的な思考やその後の行動の選択を考えることにもつながる。歴史を単なる出来事として学ぶだけにとどまらず、人物はどのような行動をとったのか、なぜそのような選択を選んだのかなどに気づくような展開ができれば、自分の考え方や生き方を深めることができる。

古代東北の歴史を学ぶ意義については、身の回りの歴史を見つめることで、日本の歴史全体へ思考を波及させることができることが一つではないかと思う。例えば、東北各地には征夷のための城柵がいくつもあ

る。これらは東北地方を治めるために朝廷が中心となって築いてきたものである。東北地方は資源に恵まれた魅力ある土地であったため、朝廷は蝦夷と話し合いながら東北を治める選択に出たのである。このようにして、身近な歴史でも教科書に出てくるような歴史的事象と結びついたり、東北の価値に気づいたりして郷土愛や愛着を育んでいくことができる。

## 3) 歴史学習における資料・情報の価値

歴史において、ある出来事を紐解いていくために情報が必要となる。「なぜ、いつ、だれが、どこで、何のために」など一つ一つが歴史における情報である。

情報の大部分が視覚的情報へと移り変わった現代は、私たちは受け身的に情報を受け取る。例えば、街中を歩いていけばあらゆるポスターを目にし、家ではテレビでスーパーの安売りのCMを見て「行かなければならない」と気持ちをせかされる。ツイッターやフェイスブックを利用すれば、他人のプライベートを間接的に覗くことができるだけでなく、付される写真や動画などで詳しく今の状況を知ることができる。広告も自分の意思とは関係なく表示される。こうなると、自分に本当に必要な情報を受け取る能力の必要性が見えづらくなるのは当然のことではないだろうか。

歴史は、歴史的な事実を時系列に正しく置き換えて初めて正しい歴史認識へとつながる。「なぜ」そのような結果になったのか、情報を並べ、正しいものとそうでないものを取捨選択することが問題解決へと導かれることを実感できるようにすることが大切である。 (文責：池田友晃)

## 2 プログラム学習に関する実践研究

今回私は、奥州藤原氏2~4代に関するパワーポイント型プログラム学習教材（以下PP型プログラム学習教材とする）を作成し大学2年生および小学6年生に対し授業実践を行った。このPP型プログラム学習教材を作成するにあたり、次の点に気がつけた。

### 2.1 奥州藤原氏について

2011年に平泉が「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群一」としてユネスコの世界遺産に登録されたことから本教材は大学生向けには奥州藤原氏2~4代の人名とそれに関わる建築物、人物の名前を漢字で書けるようにする教材、小学6年生向けには奥州藤原氏四代の人名とそれに関わる建築物、人物の名前を漢字で書けるようにする教材として作成した。奥州藤原氏が東北地方支配のために拠点とした平泉は当時平安京に次ぐ人口であり、日本第二の都市だったとされている。歴史にIfは存在しないが、仮に源頼朝によって奥州藤原氏が滅ばされなければ、現在でも大きく栄えた都市になりえたのではないだろうか。それだけ奥州藤原氏の繁栄と滅亡は古代東北における大きな転換点になると考える。岩手県を中心に東北地方の広くにわたり影響した奥州藤原氏について学ぶことは、郷土に関する歴史教育、および地元に対する愛着を持つということにつながるのではないだろうか。

### 2.2 PP型プログラム学習教材について

今回作成したPP型プログラム学習教材は歴史学習の一時間としてそのまま授業に用いた。今回の授業の学習課題は奥州藤原氏2~4代の人名あるいは奥州藤原氏四代の人名とそれに関わる建築物、人物の名前を漢字で書けるようにすることである。そのために本教材はスキナーのプログラム学習の原理に基づいて作成されている。

スモールステップに分けられた内容の提示、問題の提示、確認の提示という積極的反応の原理、

即時確認の原理の1サイクルを行うプログラム学習を行う上ではパワーポイントを用いた教材作成が適していると考える。板書を用いたプログラム学習を行うことも可能ではあるが、スライドによる提示のほうが効率よく進めることが可能である。また今回のような人物名、建築物名は基本的に変わることのない制度化された知識（教科書などによって明らかな事実としてあるもの）であるため一度作成した教材はそのまま別の教員が改善して使用することができる。

このPP型プログラム学習教材を作成するにあたって、対象となる内容をスモールステップに分け、その中の重要部分を下線や文字のフォントや色を変えることによって強調した短文として作成し直す必要がある。

以下に今回の授業実践について述べる。

### 2.3 授業実践

#### 授業実践1

大学2年生に対する奥州藤原氏2~4代に関するPP型プログラム学習教材を用いた実践

日時 2015年10月9日（金）14時45分~15時40分のうち45分間

被調査者 岩手大学教育学部2年生69名

#### 調査方法

授業開始時に事前テストを行い、PP型プログラム学習教材を提示した。終了後事後テストを行い学習定着度とPP型プログラム学習教材を用いた感想の自由記述を調べる。

なお本実践で実施した問題の中で⑰のみプログラム学習の原理を取り入れた実践を行っていない。

## 結果

表1 事前テスト、事後テストの結果

問題	事前テスト			事後テスト		
	正答数 (人)	誤答数 (人)	正答率 (%)	正答数 (人)	誤答数 (人)	正答率 (%)
⑫ 奥州藤原氏 2 代目は誰か	14	55	20.3	64	5	92.8
⑬ ⑫の建てた寺の名前は何か	13	56	18.8	66	3	95.7
⑭ 奥州藤原氏 3 代目は誰か	20	49	29.0	66	3	95.7
⑮ ⑭の建てた寺の名前は何か	11	58	15.9	66	3	95.7
⑯ 奥州藤原氏 3 代目は誰か	16	53	23.2	64	5	92.8
⑰ ⑯は誰に滅ぼされたか	11	58	15.9	41	28	59.4

表2 大学生に対する実践での事前テスト誤答者のうち事後テスト正答者の数

問題	事前テストの誤答者数 (人)	事後テストでの正答者数 (人)	
⑫	55	50	p=0.085 †
⑬	56	53	p=0.051 †
⑭	49	46	p=0.067 †
⑮	58	55	p=0.052 †
⑯	43	58	p=0.090 †
⑰	58	40	.05<p<.10 (片側確率)

表1は授業開始前の事前テストと授業終了後の事後テストの結果を示す。また表2は事前テストの誤答者のうち事後テストでの正答数を表す。事後テストで正答した人数について、プログラム学習を反映している問題⑫～⑯のそれぞれと、プログラム学習を反映していない問題⑰とを、母比率不等の検定により比較した。その結果表2に示した通り、いずれも偏りは有意傾向であり、⑫～⑯のほうが正答する人数が多かった。このことから今回のプログラム学習教材は有効に働いたと考えた。

各問題の解答は、⑫ (藤原) 基衡、⑬毛越寺、⑭ (藤原) 秀衡、⑮無量光院、⑯ (藤原) 泰衡、⑰源頼朝となる。

授業実践2 奥州藤原氏四代に関する小学生に対しての実践

日時 12月16日 (水) 9時30分～10時25分

被調査者 小学6年生34名

調査方法

授業開始時に事前テストを行い、P P型プログラム学習教材を用いた授業を行った。その後事後テスト、自由記述のアンケートを行い結果を調べた。大学生に対する実践との変更点は学習範囲を「奥州藤原氏2-4代の人物名とそれに関わる建築物や人名」から「奥州藤原氏四代の人物名とそれに関わる建築物や人名」に拡充した点である。

## 結果

表3 小学生に対する実践での事前テスト、事後テストの結果

問題	事前テスト			事後テスト		
	正答数 (人)	誤答数 (人)	正答率 (%)	正答数 (人)	誤答数 (人)	正答率 (%)
① 奥州藤原氏初代は誰か	9	25	26.4	34	0	100
② ①が建てた寺の名前は何か	18	16	52.9	34	0	100
③ 奥州藤原氏 2代目は誰か	5	29	14.7	32	2	94.1
④ ③が建てた寺の名前は何か	7	27	20.6	34	0	100
⑤ 奥州藤原氏 3代目は誰か	6	28	17.6	34	0	100
⑥ ⑤が建てた寺の名前は何か	2	32	5.9	34	0	100
⑦ 奥州藤原氏 4代目は誰か	1	33	2.9	33	1	97.0
⑧ ⑦は誰に滅ぼされたか	11	23	32.3	34	0	100

表4 小学生に対する実践での事前テスト誤答者のうち、事後テスト正答者の数

問題	事前テストの誤答者数 (人)	事後テストでの正解者数 (人)	正答率 (%)
①	25	25	100
②	16	16	100
③	29	27	93.1
④	27	27	100
⑤	28	28	100
⑥	32	32	100
⑦	33	32	97.0
⑧	23	23	100

表3は事前テスト、事後テストの正誤答者の数および正答率、表4は事前テストの誤答者のうち事後テストでの正答者の数とその正答率を表している。

事前、事後テストの各問題の正答は①（藤原）清衡、②中尊寺、③（藤原）基衡、④毛越寺、⑤（藤原）秀衡、⑥無量光院、⑦（藤原）泰衡、⑧源頼朝となる。

本実践の結果から、問題③、問題⑦以外の問題は、授業後の事後テストで34名全員が解答することができた。

## 自由記述について

大学生からの自由記述の感想に「地理的な状況

について写真や図がもっと多くあれば小学生に対してもわかりやすかった。」という意見が12人あった。今回作成した教材は文の量が多く、地理的要因を覚えるのではなく、あくまで奥州藤原氏の名前や寺院の名前を漢字で書けるようにするための教材であった。確かに写真や図があったほうが理解のしやすさや興味を持って授業に向かってくれりと考えた。言葉と図を組み合わせることでより効果は上がるだろう。

また、問題の提示の段階で「ふりがなの部分は隠してもよかった。」という意見が7人あった。今回は漢字で書けるようになるということをメインに置きたかったため、国語の漢字練習のプリントのような形で提示した。ただ最終的には「奥州



藤原氏二代目は誰ですか?」「藤原基衡です。」というように問題に答えが一致するように漢字で書けるようにするのが最終目的である。ふりがなを隠してもよかったという意見の中には「慣れてきたらいらなくと思う。」という意見もあった。

最後に、⑰の問題に関して「奥州藤原氏をほろぼしたのが源頼朝なのか河田次郎なのかごっちゃになった。」という意見があった。このようになった原因としては、⑰についてのプログラム学習を行わなかったことと、学習教材の中に「泰衡は源頼朝によって滅ぼされました。」という記述と「泰衡は代々藤原家につかえていた河田次郎に裏切られ、殺されました。」という記述があった。さらにパワーポイントの資料中の項目「なぜ攻め滅ぼされたの?」には「奥州藤原氏三代目秀衡が源義経をかくまっていたからです。」という文も入れていた。この三つの文章の存在と、プログラム学習がされなかったために、事後テストの誤答として「源義経」「河田次郎」という回答があったのだと考えられる。「泰衡は源頼朝によって滅ぼされた」という知識を定着させるために、また母比率不等検定の結果からものプログラム学習は有効であったといえるだろう。

小学生からの自由記述には「奥州藤原氏のことを詳しく知ることができた。」「時代の流れがよくわかった。」「ごろ合わせなど資料もあって覚えやすかったです。」など、理解できたと見受けられる声が34人中16人あり、ここからも効果があったことを読み取ることができる。

また、「モニター（テレビ）を使った授業だったので面白かった。」という声や、「絵や写真が動いたので面白かった。」という興味をひかれた意見が34人中6人あった。さらに少数ではあるが「歴史の出来事と岩手県を結びつけることができた」という意見が34人中3人あった。このことからあまり飽きないで、郷土の歴史に多少興味を持つことができたのだと思う。

## 2.5 考察

今回の実践から、P P型プログラム学習教材は覚えやすさ、わかりやすさの点で学習効果があるといえるだろう。しかし今回は覚えるための学習教材であったため、実習、実験は存在しない。この中で一番問題なのは学習者が飽きてしまうことである。今回の小学校の実践では、本来45分で行う予定であったことに対し10分も時間を超過してしまった。大学生の実践から掘り下げる部分を減らし、新たに奥州藤原氏初代も覚える内容に加えた。そのため今回覚えてほしかった人物名、建物名は8項目（大学2年生での実践では6項目であった）になってしまい、プログラム学習に割く時間も多くなってしまい、授業時間に対するP P型プログラム学習教材の使用の仕方について課題があると考えられる。P P型プログラム学習を用いるのは5~10分程度、前時あるいは本時の学習の振り返りとして使用することが望ましいだろう。

P P型プログラム学習教材を作成するとき気を付けることは多くの時間を要することである。提示する内容に関する資料を集め授業者の内容に対する理解を深める。そして内容をできる限りスモールステップに分け、重要部分が分かりやすいような短文として提示し直すという手間がある。授業の初めや終わりに使う内容でもそれなりに準備に時間がかかる。単調なスライドに関する説明にならないようにするため、学習者の興味を向けるための工夫も必要になる。しかし、一度作成するとそれ以降は誰でも同様の教材を使うことができ、また新しい考え方や内容に対してプログラムを変化させることができる。その結果プログラム学習教材内に内容の蓄積がされる。

学習者における利点は、前述のとおり、覚えやすさ、わかりやすさがあげられる。またプログラム学習教材は個人に配布することが可能なため、自分のペースで繰り返し学習を行うことができ、基礎的な知識の定着に優れている。

(文責：門脇伸大)

## 2.6 小学校教師の立場から見た授業実践についての考察

PP型プログラム学習教材を使う授業，教科書・資料集を使う授業，スタイルは違っていても重要なことは，学習者が「学んでみたい」と思うかどうかである。

たしかに，PP型プログラム学習教材を使った場合，普段と違うという理由で興味を示す児童は多いと思われる。しかし，その興味・関心が持続し，「今日の授業は楽しかった。いろいろ勉強になった」と実感するかどうかは，学習材の中身と授業者の技術にかかっている。

学習材の中身については，第一に「ストーリー性があるか」ということが重要である。PP型プログラム学習教材を使用する場合，学習者は画面を見て学んでいくことがほとんどである。よって，そのストーリーが分からなくなると，自然と興味が薄れていく。今回は，そのストーリー性が学習者に合っていたと思う。また，アニメーションも効果的に使われていたことも，学習者を引きつける一つの要因になっていた。

授業者の技術については，一朝一夕に身に付くものではない。学級の実態によっても，効果的な技術は異なってくる。どの部分を児童に聞く，つまり発問するのか，どの部分は説明するのか，じっくり考えさせるのか，リズム良く答えさせるのか・・・，そういった細かい指導技術が重要であると考えられる。特に今回の授業では，終末の場面（藤原四代の名前を書く部分）で，もう少し工夫が必要だったと思う。指示の出し方，書くスピードの指定など，学習者が集中するための手立てがとれたと感じた。つまり，どんな学習教材を使おうと，授業を構成する要素自体はそう変わらないはずである。ある一部分だけを充実させても，そううまくいかないのが授業であると考えれば，これからも工夫の余地はあると考える。そう考えることが，PP型プログラム学習教材の可能性を広げることにつながると考える。（文責：板垣健）

## 3 教職経験者10年研修の受講者を対象とする作成

3.1実施日時 2015年12月25日（金）9:00～16:00

3.2対象者 教職経験者10年研修の受講者15名

高校教員10名、中学校教員1名、小学校教員1名、特別支援学校教員3名

### 3.3作成手順

パワーポイント型プログラム学習教材では簡潔な文表現を覚えることを通して、学習対象についての内容を覚えることとする。そこで大切になってくるのが、学習対象についての簡潔な文表現を作成することになる。簡潔な文表現は、「制度化された知識」であることが多い。その理由は、学習者にはできるだけ確定した正しい知識を伝えようとするためである。できるだけ間違いを教えるはならないという立場に立つためである。

学習者に学習内容の理解をしてもらうために、「解説・説明用プレゼンテーション教材の作成」をまずしてもらい、続いて、目的とする「暗記用PP型P学習教材の作成」をするのが正しい手順となる。具体的には、次の手順となる。

- 1/教材の関連資料の収集
- 2/学習内容の詳細な下調べ学習
- 3/「解説・説明用プレゼンテーション教材の作成」
- 4/入試問題などの収集
- 5/暗記用の簡潔な文表現の選択と作成
- 6/「暗記用PP型P学習教材の作成」

### 3.4実施順序とその内容

以下、時系列に沿って講習内容を述べる。

- 1/研修のねらい
- 2/基本的立場
- 3/日程計画
- 4/配付資料
- 4.5/内容説明 暗記文作成に向けた歴史内容全体の理解を目指して
  - 1)「夕顔瀬橋の名前の由来」説明
  - 2)NHK大河ドラマ『炎立つ』「厨川落城」(45

分)の視聴

- 3) NHK 大河ドラマ『炎立つ』「吉彦秀武の真衡への砂金ぶちまけ場面」(15分)の視聴
- 4) プログラム学習の原理の学習(約20分)
- 5) 弁別学習・「聞く子は育つー大切な授業態度」
- 6) 空欄問題に解答を求める理由
- 7) 提示文について
- 8) 書く作業の準備/紙・筆記用具・隠し紙
- 9) キーワードの明記/下線または色づけ
- 10) 名詞一つずつ、続いて説明済の2つへと続ける
- 11) 地図や系図や建物の写真等を必要に応じて途中に挿入する/例示「奥州藤原氏3代と建立建物」
- 12) 暗記用文作成に至る過程とし、歴史事項の概要を知る
- 13) 制度化された知識としての暗記用例文の限定
- 14) 作成手順のまとめ  
【12:30~13:30】 昼休み  
【13:30~】
- 15) 今回は研修会として、大学入試問題を準備した/準備した中から各自選択へ
- 16) 例示を参考にして、各自に割り当てられた文について、パワーポイント型のプログラム学習教材の作成に入った
- 17) グループを3つに分けて、各5名がグループ内でデモンストレーションをして、作成プログラムの意見を求めた。  
【15:30~16:00】
- 18) 全体に向けてのデモンストレーション/各グループ代表1つ

#### 4.6/ 結果と考察

##### 題材としての教材

1) 【背景となる知識理解について】暗記文作成のための準備を中心にして研修会内容を決めたために、プログラム作成手順の研修会として受講生には不満が出た。

講師の意図として、十分な下調べ、簡潔な暗記文の作成の手順を踏んでもらうために、1日という短時日にもかかわらず、古代北東北の歴史のメインとなる出来事として、①前九年の役、②後三年の役を取り上げた。これらに関連するものとして、前九年の役のきっかけとなる「阿久利川事件」、「吉彦秀武の真衡への砂金ぶちまけ事件」を、さらに入試問題においては、「淳足柵」「磐舟柵」の設置から、桓武天皇による坂上田村麻呂の征夷大將軍の任命による多賀城から胆沢城、志波城の設置、また配付資料では、達谷窟の悪路王(アテルイ)とモタイ、河田次郎の泰衡殺害を、更に、頼朝の全国制覇にかかわる秘密(永井路子ゲスト)を説明した。永井路子の「源頼朝、全国制覇の秘密」は、義経を自害に追い込む、頼朝政権の複雑を知るうえで貴重な資料であると思われた。また、流鏑馬の訓練のねらいが、鎧の隙間を狙う射弓の訓練にあり、テレビ番組のような鎧に矢が当たるだけでは相手に傷害を与えられないこと、また義経の一の谷を奇襲する断崖の傾斜とそこでの馬の駆け下りの説明からは、当時の馬の特徴を知ることができよう。

例題を年表で示すと以下の通りとなる。

暗記文の内容となる説明に半日を費やしたために、受講生の一人からは、[前半の内容は不要ではないか、むしろ後半部分のプログラム作成を中心にして欲しかったのに、十分な時間が確保されずに残念だった]という不満の意見があった。

参考書『流れで読み解く日本史一問一答』(2012)にある簡潔な文を次に示す。【年表】【 】が空欄問題であり、正解を挿入して示す。ただし出題校を省略した。

##### 《桓武天皇の政策》

・794年、桓武天皇は長岡京から【平安】京へと再遷都し、【平安】時代がはじまった。

・桓武天皇は、東北以北の【蝦夷】地域の開拓を行った。

・780年、蝦夷(東北以北の地)の豪族である【伊治砦(「シ」で検索すると表示可能)麻呂】が政

府の蝦夷開拓に対して反乱を起こした。それ以来、桓武天皇の時代まで、蝦夷との戦争が相次いでいた。

・桓武天皇は、【坂上田村麻呂】を征夷大將軍に任命して蝦夷地域に派遣した。

・蝦夷地域の開拓で中心的な役割を果たした役所を【鎮守】府という。

・坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命されたとき、鎮守府は【多賀】城にあった。

・802年、坂上田村麻呂は、新たに造営した【胆沢】城に鎮守府を移し、蝦夷地域における支配圏を日本海側にまで拡大し、翌803年には最北の城柵として志波城をつくった。

・蝦夷への軍事侵攻を行う際に足がかりとなった城柵のうち、越後国には、磐舟柵(648年)と、最も南に位置する城柵の【淳足】柵(647年)があった。

・城柵のうち【秋田】城は、出羽国の拠点となった。

#### 《武士団の発展と清和源氏》

・11世紀、清和源氏や桓武平氏らの軍事貴族は、放置を武士団を広く組織して武家の【棟梁】となり、大きな勢力を築いていった。

・1028～1031年、国司と対立した【平忠常】は、上総で【平忠常】の乱を起こした。

・1051～62年、源頼信の子の【源頼義】は陸奥守として任地に下り、息子の義家とともに東国の武士を率いて、陸奥の国司と争っていた豪族の安倍氏と戦った。

・源頼義と息子の源義家が安倍氏と戦った合戦を【前九年】合戦という。

・1083～87年、陸奥・出羽両国の清原氏一族の内紛が起きた際、源頼義の息子で陸奥守の源義家は、藤原清衡を助けて内紛を平定した。この合戦を【後三年】合戦という。

・奥州藤原氏の栄華は、藤原清衡から子の【基衡】、孫の秀衡へと引き継がれた。

(出典 川畑勝編集人 2012 流れで読み解く日本史一問一答 学研マーケティング pp.53-54, 73-74)

以上は、古代北東北における蝦夷征伐から、武

士団の成長と奥州藤原氏の盛衰を中心に選択した。

2) 背景となる知識理解について】一方、地元の歴史を知ることができて、大変興味が湧いたという意見があった。具体的には「今回は歴史を中心に学習しましたが、問題を作る際にはその背景をしっかりと理解することの大切さも分かりました。『前九年の役』や『後三年の役』の名前はよく聞くのですが、正直どんな内容かが分かりませんでした。しかし、今日の『炎立つ』のDVDを見て、こんなことがあったのかと納得しました。『吉彦秀武の真衡への砂金ぶちまけ事件』から後三年の役が始まったというのが驚きです。これが奥州平泉文化へと発展すると思うとワクワクしますね。もっと歴史を勉強しようと思いました。」(小学校教員)、「歴史について、大河ドラマを通して見たことがなかったので新鮮でした。歴史を習ったのは中学校以来であり、大人になってあらためて勉強すると面白く自分でも勉強してみたいと思った。」(高校教員)

#### 「プログラム学習の原理」ではどのような原理が大切になるか

3) 「プログラム学習の原理」では、資料(東, 1963)を受講生に読んでもらった際に、講師側の問として「どの原理が最も大切であるか」と問いを發した。「スモールステップの原理」が7人、「積極的反應の原理」が5人であった。講師側の意図では、学習者にこそ積極的に読んだり、書いたりしてもらうことが、つまり「積極的反應の原理」が知識を確実に定着させるのに最も大切であることを指摘した。

これは授業の中でパワーポイントによる提示をしなくても、いつでも利用できる方法として、授業のまとめの終了間際の5～10分程度を利用して、その時間に習った重要事項を黒板にキーワード的に表現して、書かせて練習させてから、そのキーワードを黒板消しで消してから、再度書かせて確認することでも可能になることを受講生には念を



押し主張した。

#### 4) キーワードの強調方法

暗記文の中にあるキーワードを下線を引いたり、色表示をすることは、学習者の注意を引くことをねらったものとして特に主張した。注意をひくことは、一種の弁別学習の必要性を指摘している。弁別学習は特に特別支援学級で強調されるが、一般の教室においても最も重要なことのひとつである。

本間(1981)は「ある日、職員室ではあくびばかりしている、少し疲れのみえてきた中年の女教師のクラスの補欠授業について、私の20年間の授業がまちがいであったことにはっきり気づかされた。」と述べている。「そのクラスでは、私が『えー』と一言発しただけで、反射的に44人の視線がピタッと集まるのだった。『聞きます』という意気ごみみたいなものが感じられた。『静かにしなさい』『こちらを向け!』というような、しかり言葉で始まることもある私の授業とは雲泥の差であった。」という。

授業がはじまっても騒がしい教室は、懸命に授業を聞こうとする生徒にとって妨害となり、最悪の状態であり、理解できない学習者を増やすことになろう。結果として、分からない学習者を増大させることとなり、分からなければ騒ぐという悪循環を作り出す原因にもなるだろう。教師の一言と同様に、プログラムのキーワードへの注視は、弁別学習そのものであり、最も大切な知識定着の第一歩なのである。

#### 5) 空欄に適語の記述を求める理由

プログラム学習では、空欄の問題が多用される。その場合、正しい理解とは適する語句を空欄に記述できることと捉える。遠藤(1986)は、理解とは一言で表現すれば「知」、つまり矢が的に的中するように、口すなわち、言葉を用いて正確に表現することだという。AとBが与えられて、どちらかを選ぶというように頭を左右に振ることは単なる比較をしているだけで、理解とはいえない

という。このことから、選択式問題は比較の問題として捉えることができる。プログラム学習教材でもこの立場に依拠して、空欄に適する語を記述できる場合を、正確に理解している状態と捉える。

#### 6) 集団で一つの題材についてプログラム教材を作成する場合には、暗記文全体が一つのストーリーを形成するようにしたい

武士の台頭から源氏と平氏の争いを経て、前九年の役、後三年の役、奥州藤原氏、そして頼朝による奥州征服の一連の流れとして、全部のプログラムにおける文表現がまとまりのあるものになることが、全員で作成する場合には求められるものとなる。全員が歴史的流れを理解できるからである。具体的には次の項目を含むようにしたい。

武士団の結成、桓武平氏、清和源氏、押領使、追捕使、平忠常の乱(1028~31)、阿久利川事件、前九年の役(1051)、吉彦秀武の真衡への砂金ぶちまけ事件、後三年の役(1083)、藤原清衡 中尊寺金色堂、基衡 毛越寺、秀衡 無量光院、義経の自害、河田次郎の泰衡殺害 (文責：大河原清)

#### 参考文献

- 遠藤哲夫 1986 「わかる」とは何か/学習意欲と能力の開発 岩手大学教育学部附属小学校昭和61年度学校公開記念講演報告書 岩手大学教育学部 pp.12-13
- 本間昇 1981 聞く子は育つ/大切な授業態度 小学校教育実践選書/歴史の授業の展開 あゆみ出版 pp.18-19
- 川畑勝編集人 2012 流れで読み解く日本史一問一答 学研マーケティング pp.53-54, 73-74
- 東洋 1963 プログラム学習 波多野完治編 授業の科学第4巻(授業方法の科学1) 国土社 Pp.73-80
- 渡辺保 1970 前九年・後三年の戦い カラー版日本の歴史3平安京と貴族 ポプラ社 pp.167-184
- 平野直 1972 日本史の目/みちのくの王者一秀衡をめぐる人たち一 さ・え・ら書房 p.22

ゲスト永井路子 1997 源頼朝、全国制覇の秘密 / 追跡・関東騎馬軍団 NHK取材班編者・(有)オフィス眞編集 堂々日本史6 Pp.24-70

豊田有恒 1984 坂上田村麻呂 黒岩重五ほか6名著 歴史の群像3決断 集英社 Pp.81-122

村上元三 1977 奥州の戦乱 千賀四郎編 戦乱日本の歴史3源平の盛衰 小学館 Pp.155-224

今東光 1977 前九年・後三年の役 千賀四郎編 戦乱日本の歴史2辺境の争乱 小学館 Pp.149-223

高橋純 1993 劇画後三年役物語 有限会社シスコ

【付録 絵図引用先】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BA%90%E9%A0%BC%E6%9C%9D>

[http://www.officiallyjd.com/archives/99966/20120118\\_dqname\\_21/](http://www.officiallyjd.com/archives/99966/20120118_dqname_21/)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E6%B8%85%E8%A1%A1>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E5%9F%BA%E8%A1%A1>

[http://www.bell.jp/pancho/k\\_diary-6/2011\\_11\\_12.htm](http://www.bell.jp/pancho/k_diary-6/2011_11_12.htm)

<http://orimasa2005.web.fc2.com/hiraizumi4.htm>

<http://urawa-red-hornet250.cocolog-nifty.com/blog/2008/09/jr-a0b0.html>

【プログラム例】

問題です。  
次の人物はだれですか？




出典 ja.wikipedia.org  
**源頼朝**

出典 officialtyjd.com  
**源義経**

1

では、次の人物はだれですか？



① 出典 ja.wikipedia.org

② 出典 ja.wikipedia.org


③ 出典 bell.jp

④ 出典 orimasa2005.web.fc2.com

2

この四人の人物は、頼朝や義経と同じ時代に岩手で活やくした人物です。

今日はこの人たちの名前とそれに関わる建物、人物の名前をいっしょに覚えましょう。



3

はじめに……。

平安時代に、東北地方で大きな戦いがあったことを知っていますか？

4

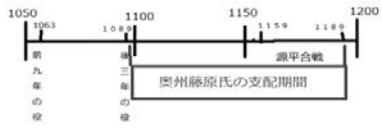
その戦いのことを  
前九年の役、後三年の役とい  
います。



出典 app.fm-cocolog.jp

5

二つの戦いの後約100年の間、  
東北地方を治めていた一族を、  
奥州藤原氏(おうしゅうふじわらし)  
といいます。



6



源頼朝が鎌倉幕府を開くまで続きました。

7

それでは、今日の勉強の内容に入ります。

8

## 奥州藤原氏四代

名前と出来事を覚えよう

9



奥州藤原氏初代  
藤原清衡(きよひら)

10

清衡は後三年の役を平定した後、平泉を拠点にして東北地方を治めました。

11



清衡は平泉に中尊寺(ちゆうそんじ)という寺をつくりました。

12